

暫定予算に対する討論(3月30日) 山口清明議員

暫定予算ふさわしくない予算が盛り込まれている 大震災も考慮して大型事業はリセットを

3月30日、本会議が行われ、2010年度補正予算や2011年度暫定予算の採決が行われ、山口議員が暫定予算に反対の立場で討論を行いました。賛成討論はなく、日本共産党だけの反対で可決されました。山口議員の反対討論を紹介します。

議会の予算審議権がないがしろにされる

反対理由の第一は、議会の予算審議権をないがしろにする、暫定予算にふさわしくない予算措置がいくつか盛り込まれているからです。

縮小される事業のひとつである「民間保育所保育士確保対策補給金」は、民間保育園にとって大切な制度です。補給金の削減による「市民サービスの低下はない」と財政局長は答弁されましたが、保育園の経営には少なくない痛手であることが委員会審議で明らかになりました。待機児童対策に力を入れる名古屋市がとるべき態度とは思えません。

本丸御殿再建や高速道路など漫然と事業を継続する姿勢は認められない

第二は、継続事業でも大型プロジェクトについては、しっかり見直すことが必要だからです。とりわけ東北・関東大震災が発生し、被災者支援と被災地復興に力を注ぐべき時です。漫然と事業を継続する姿勢は容認できません。

名古屋城本丸御殿の建設事業費が盛り込まれていますが、いま急ぐ必要がない事業であり、震災発生も踏

まえて、もういちど見直すことが必要です。それなのに債務負担行為とはいえ、新年度予算11億6千万円全額が暫定予算に計上されています。

中区大井町の民間市街地再開発事業や名駅4丁目4番南地区の優良建築物整備事業は、どちらも高層ビル建設に一般会計から巨額を投じるものです。この二つは債務負担行為ですらないのに、どちらも新年度予算の全額が暫定予算に計上されています。事業の継続について見直す機会もないまま、本格的な予算審議前に、暫定予算ですべて執行するのは問題です。

名古屋高速道路への出資金・貸付金は今年度58億円、これも全額が暫定予算に計上されています。部分開通した高速4号東海線では、基準をこえた騒音が発生しており、熱田区地域環境審議会からは河村市長あてに騒音対策を求める要望書が提出されているほどです。高速道路建設による環境悪化についても十分な審議が必要です。暫定予算で処理すべき案件とは思えません。

大震災の直後であり継続事業でも見直しを

未曾有の大震災が発生した直後です。継続事業だからと安易に考えず、大型プロジェクトについては、一度リセットして、ゼロからその必要性を考え直すべきです。暫定予算だからといって、これらの事業継続をだまってお見すごすわけにはいきません。



一般会計暫定予算の主な内容と当初予算との比率(億円:%)

項目	暫定 予算額	当初 予算額	暫定予算 の比率
名古屋城本丸御殿復元工事	11.6	11.6	100.0
有料道路支援関連事業	9.3	31.1	29.9
ささしまライブ24の整備	41.9	93.7	44.7
都市高速道路への出資・貸付	58.0	58.0	100.0
民間市街地再開発(大井町1番南)	8.1	8.1	100.0
優良建築物等整備(名駅四丁目4番南)	1.2	1.2	100.0
民間木造住宅の耐震診断・改修	2.0	3.1	64.5
計	1,831	10,499	17.4

緑市民病院の民営化や児童福祉センター跡地の売却 ・・・減税・自民・公明・民主が賛成・・・

補正予算や暫定予算、副市長人事など、3月中に議決を求められた55案件のうち、日本共産党は、暫定予算をはじめ、緑市民病院の民間法人への指定管理者の指定、児童福祉センター跡地19,527㎡を30億円での売却、汐見が丘保育園の廃止、共産党以外で協議して提案された監査委員の選任など13件に反対しました。討論して意見をいい、反対したのは日本共産党だけという、従来の議会風景とほとんど変わりませんでした。委員会では日本共産党以外はすべて賛成でしたが、児童福祉センター売却など3件の一括採決の時には減税日本の2人が賛成しませんでした。